

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106084		
法人名	医療法人 青木内科小児科医院		
事業所名	グループホーム あいの里シルバーメイツ (1階)		
所在地	岡山県岡山市北区今5丁目3-25		
自己評価作成日	平成22年1月20日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3370106084&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3370106084&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成23年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・のびのびとした空間・家庭的な雰囲気の中で一人一人が安全で安心して過ごせる場所を提供している。利用者様ひとりひとりに合わせて自立に向けた支援をしている。(母体が医療法人・各専門職との連携・情報の共有・チームワーク作り)  
 ・家族との連携や信頼関係を築き、地域とのつながりを大切にし、地域の中の一員として生活が送れるよう取り組んでいる  
 ・サービスの質の向上にむけて全職員が正職員・有資格者であり、研修の充実をはじめ、「ケアは気づきである」をモットーにより良いケアを提供している

医療面ではホームの母体が「医療法人・青木内科小児科医院」であり、他診療科との連携についても万全である事、認知症対応についても先進的存在である事、管理者を始めとして職員がケアのレベルアップに邁進し、いかなる困難事例に対しても投げ出さない気迫を持っている事等、利用者本人や家族が安心して暮らせる要因は数多く見受けられる。法人の長年の地盤に加えて、このホームの地域へのネットワーク作りや、本人や本人を取り巻く家族への熱い支援が、開設8年目を迎える「あいの里シルバーメイツ」の、少々何があっても揺らぐことのない底力を創り上げている。こういった基盤作りの過程に上乗せして作られた「目標達成計画」は、開設以来の振り返りにも役立ち、種々の再発見にも役立っている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義は日常の生活やケアの中で十分に理解されていると思う。年に1回全体での目標・個人の目標を決め、半年に1度見直しをし、目標に向けて話し合いをしている。またケアプラン作成時などに理念に基づき職員全員で実践につなげるべく統一を図っている	理念は玄関に掲示し、研修の際に、また、日常的によく確認するようにしている。21年度目標達成計画の項目の一つに「自分史作り」を取り上げているが、この取り組みによってこのホームの理念を共有するチャンスが増えている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	設立当初から公園の清掃作業に入居者と共に参加し、町内の方と顔見知りになり会話ははずんでいる。日常的に散歩に行き挨拶を交わしたり、近隣の方から野菜や果物などの差し入れがある。ホームの行事「推進会議・絵手紙」にも多数の参加がある。町内の行事にも積極的に参加している。定期的な保育園児の訪問を受け入れている	地域の中に溶け込んだ存在のグループホームと言う事を常に念頭に置いてこれまであらゆるチャンスを捉えて努力してきた結果、日常的にも、また、地域や法人、ホームの行事等においても多くの交流が見られるようになってきた。	ある運営推進会議の家族の発言の中に「絵手紙いつも上手にされている。認知症の人でもこんなにできる…」等の記録を見た。支援も継続して素晴らしく、何とかこの地元で多数の人に見て頂き、交流も増やせないかと思う。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を定期的に配布する・見学や相談があれば積極的に引き受けている。運営推進会議の内容に勉強会や外部講師の研修なども取り入れている。人材育成の貢献として実習生の受け入れを積極的に行っている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回サービスの実際や取り組みについて報告をしている。家族の意見や思いを伺い、職員間の情報共有と見直す点への話し合いを設け、意識向上につなげている	毎回半数以上も家族の参加があり、「家族が今後もこのホームを支援していきたい」等、ホーム運営に関わるような意見も出ている。町内の方々の参加も必ずあり、協力や情報提供をよくしてもらっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導や書類提出時等又事業所の実情についても積極的に連絡をし、協力関係を築く様努めている。サブセンターには、毎回運営推進会議についての案内をだしているが、参加の回数は少ない。欠席の場合には会議録をおくるなどの取り組みが今後の課題である	このホームの運営推進会議への取り組む姿勢は当初より目を見張るものがあり、他施設へモデル的事例として紹介する程であるが、市の担当者の協力の方が少なく残念だ、但し、日頃から連絡や指導を受ける等、連携を取る努力はしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が講師になり、身体拘束・虐待などの研修を実施している。日々のケアの中で身体拘束になるようなケア内容があればその都度説明を行い、申し送りや会議等で職員全体に徹底するようにしている。身体的な拘束はもとより、言葉による身体拘束についてもケアの中で十分な注意をしている。基本的に身体拘束はしないという前提で取り組んでいる	「身体拘束や虐待がこのような施設で起こり得る訳がない」と言う強い信念を持ち、時に新聞で見る世間の実態に憤りを訴えている。但し、研修は怠ることなく、心理的拘束につながるかも知れない要因等についてもよく注意している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しても、研修を実施したり、マスコミでの報道等にも関心を持ち、心理的な虐待も含めてその都度申し送りや話し合いをするなど防止に努めている。職員の精神的ストレスが、ケアに影響しないように自己のコントロールに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前出前講座等を使用し、研修を実施したが、今後もホーム内の研修等に取り入れていく必要がある		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をとって、十分に説明を行っている。特に家族が心配されている点「看取り・重度化」などについては、詳しく今までのケース等を参考にしたり、法人としての連携体制等も十分に説明をし納得していただいている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けている。現在まで特に記入はないが、推進会議をはじめ、カンファ時・面会時等に意見を言いやすいような雰囲気づくりに努めたり、雑談の中での気づきを共有し、改善反映するようにしている。家族からの苦情は、迅速に対応し、職員間で共有し、サービスの質の向上につなげている	本人・家族の思いや言葉をキャッチし、職員間で情報を共有する為の書式検討を昨年度の目標達成計画の一つとして取組み、より良い効果を期待して継続している。家族の意見は家族会や運営推進会議等で出してもらっている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気づきシートを掲示しており、気づき時にそれぞれが記入し、月に1回皆で意見を出し合い、改善の方向にもっていている。手帳の提出や目標管理シートの面談時等にも意見を聞くようにしている。毎月の定例の法人全体での運営会議には意見や提案を検討し、その内容は職員に伝達している	全職員が正職員・有資格者であり、種々の会議や研修も確実に実施できると言う、他のホームではあまり見受けられない体制である為、職員間の意見交換や情報の共有徹底も良く出来ている。職員の意見を聞くシステムも数多くある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課(目標管理シート)や日頃の気づきや提案などを記入する手帳の内容の把握に努めている。資格取得に向けた支援を法人全体で行ったり、研修を始め、勉強会などを積極的に取り入れている。また子育てがしやすい職場環境労働条件が整っている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修年間計画に基づき、法人全体または事業所ごとに研修委員会を設置し、入職時の研修を始め、経験年数に応じたスキルアップのための研修専門職による各種研修等で質の高い職員を育てる取り組みを行っている。また外部研修への参加を促し、受講後は伝達講習なども行っている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者の集い等に参加した事があるが、時間の制限等あり、なかなか活動が出来ていない。今後の課題である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用申し込み時には、本人の生活状況を把握するよう家族や、利用しているサービス機関からの情報を収集している。また事前面談時には、必ず本人にきていただき、本人の思いを把握し、他の入居の方とお茶など飲んで頂き雰囲気等を体感して頂いている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事や今までのご苦労や大変さを傾聴し、当ホームの対応などについての話し合いをするように心がけている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームの利用だけではなく、「その時」必要としているサービスに関して、法人内のサービスはもとより、他の関係機関への紹介や電話での問い合わせなどを積極的に行っている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで一生懸命生きてこられた人生の先輩であるという認識を職員は持ち、お互いに助け合うという思いで生活をしている。生活歴から得意分野等を十分に把握し、教えてもらったり助けていただきながら生活を共にしている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時をはじめ、カンファ時などにも日常の細かな様子をお伝えしている。また定期的な便りや新聞等の発行を行い、日々の様子を伝えている。家族と共に過ごす時間を作ったり、ホームの中の家族の役割等も自然と出来つつある		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や暑中見舞い等で思い出話等話したり、時々の墓参りや家族を介して昔馴染みの友人たちや親せき等の訪問があり、積極的に機会を設けている	職員が利用者本人や家族から耳にした情報を元にかつての馴染みの関係につなぐ事例もあるが、本人の思いを家族に伝えて、本人が喜ぶような事例を実現させた事もある。取り組みの成果の自己評価はまずまずで、今後も継続していく。	昨年の外部評価の期待したい内容の一つだが、「自分史作り」を目標達成計画に挙げて取り組む過程の中で多くの波及効果を見つけることが出来たようだ。業務の一つとして定着させ、今後活用の幅を広げて欲しい。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について全職員で日々情報を共有し、孤立しないような席の配置や個別な関わり、ストレス発散方法の模索、家族との情報共有等をおこない、孤立しそうな状況を事前に仲裁している。利用者同士が、みんな仲良く暮らすと言えるような環境を支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先への見舞や、手紙・家族との電話での連絡をはじめ、その関係先との情報収集を行う様、努めている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で思いや意向を把握できるような気づきを大切に、職員全体で共有している。本人にとってどこでどのように暮らす事がいいのかを常に考え、家族とも話し合いをし検討している	このホームの利用者は「ああしたい、こうしたい」をはっきりと言える人が比較的多い。また、実際にマイペースを守って暮らしている人も見かける事が出来た。こういった集団の暮らしの中で可能な限りの思い思いの生活を職員はよく支援している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時はもちろん、日々の関わりの中・家族の面会時等把握ができるような環境作りを行っている。自分史作りを今年度は実践でき、生活歴等の見直しの再発見に努める事が出来た		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・個人カルテ・申し送りノート・日誌等を通して、日々の状態を把握するようにしている。できることや得意な分野での支援が自信につながる為に日々の行動・言動から新たな発見に結びつけるよう働きかけている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日常の関わりの中で、思いや意見を聞き把握するように努めている。また家族にカンファレンス等に参加を促している。職員はカンファレンスはもとより、日常の中で、気づき等を即プランに結び付けるような支援を行っている	昨年度目標達成計画の一つ「気づきの記入の検討」は単に記録の実践に対する効果に止まらず、情報の共有やケアプラン・モニタリングにも波及する課題であり、今後改善を重ねる事でより一層のレベルアップが図られると思う。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にカルテを準備し、食事・排泄・日々の様子や本人の言葉・周辺症状への対応等を記入し、勤務開始前にはそれらを読んでから業務にはいるようにしている。個々に面会対応簿を作成し、情報の収集と共有に努め、介護計画に活かせるような取り組みも行っている。職員一人一人の異なる視点から気づきをケアに活かすために「気づきシート」を作成し、個々の気づきを職員全員で共有し、ケアの見直し等に活用している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事前の連絡がなくてもご家族様との外出・外泊など本人の体調がよければいつでも可能で柔軟な対応をしている。一日のスケジュールは大体決まっているが、その時々で利用者や家族に合わせて柔軟な支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公園の清掃作業に毎月参加し地域の人と交流をはかっている。地域への買い物や理美容へ行き、地域の中での生活を重要視している。運営推進会議に民生委員や老人会の方の参加を頂き情報交換や協力体制を築いている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望・もしくは本人の病状等にあった適切なかかりつけ医を家族と相談して決めている。家族の協力を得ながら、かかりつけ医とも電話やメモ等で情報の共有を図っている	このホームの一番の安心材料がこの母体である法人の医療体制と思うが、今日の訪問でも実際に色々な医療支援を知ることができた。家族の協力も多く、困難な状況があっても三者でよう話し合っ対応している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医院との契約により、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行っている。また体調の変化や異状は素早く看護師に報告し、早期発見・早期治療に結びつけている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーをはじめ、出来るだけ詳しい情報を伝達している。入院時の付き添いをはじめ、入院中も出来る限りの面会と関係者との情報の交換や家族との連携を取り一日も早い退院をアプローチしている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時に文書に基づき説明を行い、事業所で出来ることなどを話し意向の確認は行っているが、入院から重度化・終末期を迎えた方が多く、医療的処置の必要な方が、大半だった	ホーム開設時より、「入居して頂いた以上、医療的問題が生じない限り看取りまでさせていただきます」と言う方針を貫き、そのように家族にも話し、家族から意向も聞いている。今までは終末期には入院などの状況の人が多かったが、環境が整えば受け入れる予定である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の緊急時対応やマニュアルを作成し見直しを行っている。また法人全体での定期的な研修やホームでの研修も行っているが、定期的に継続する事が課題である		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回入居者と共に避難訓練を行ったり、随時シュミレーションを実施している。今年度スプリンクラーを設置予定である。地域の協力体制については、運営推進会議等で協力を呼び掛けている	スプリンクラー・火災通報装置は2月末完成予定で、今日も工事の人が入っていた。災害対策は地理的条件等から考えて、主として火災を想定しており、可能な限りの実地訓練や講習等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活歴や性格を把握するとともに人格を尊重した声かけや対応を心掛けている	一人ひとりを尊重すると言う事は、まず一人ひとりを職員が良く知る事、又、利用者自身が自分の思いを述べたり、自分で決めるチャンスを用意する事等重視して、目標達成計画に盛り込んだ。具体的に評価しやすいも目標設定で効果を上げている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけや対応で選択肢を用意し、それぞれに合わせて希望や自己決定ができるよう場面を作っている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大体決めているが、その中でも、起床時間・臥床時間・食事の時間・入浴・レクやイベントの参加・散歩・買い物等個別性を考えた支援を行っている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れや身の周りの清潔には、常に気を配り、家族の協力を得ながら、その人らしさを尊重し、みだしなみやおしゃれの支援をしている。美容院や顔そりはその方に合わせた髪形をなじみの理容院でしてもらっている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に決めることは、十分ではないが、できることを一緒に行うことをモットーにしている。買い物をはじめ、朝・昼・夕食手作りおやつや準備片づけ等を一緒に行っている。料理にまつわる話や巻きずしや作り・お好み焼き等は、利用者が率先してやっている場面も多くみられる	今日の昼食も個々に多少の工夫や変化をつけ、その人の今の状態に合わせた調理でありながら、全員同じように食事を楽しんでいた。かって、食事は全介助だった人が、職員のある発見によって、今日は上手に一人で食べているのを見て、私は感動した。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の配置があり、栄養面での支援は十分にできている。医療との連携が必要な方の栄養バランス・食事形態・水分摂取量の確保の方法等あらゆる支援を行っている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて毎食後・起床時・就寝時に見守りや声かけで対応したり、できない方についても同様その方の状態に合わせた歯ブラシ等を使用し、ケアを行っている。毎週法人内の歯科から医師・歯科衛生士の訪問があり、連携をとっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけそれぞれの排泄パターンを把握するとともに健康管理に配慮している。自尊心には、十分配慮する声かけや周囲に対する気遣い等にも配慮を行い、各人に応じたおむつ類の使用の検討を常に行っている。トイレでの排泄を基本とし、最後まで自立に向けた支援を行っている	車椅子を使わず自分の足で歩き、箸と茶碗を持って自分の口から食べ、そして「自分の意志と力で排泄を」がこのホームの「出来て当たり前」の自立支援としている。排泄支援もその人毎に、実にきめ細やかな対応が見られる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し、各人の排便のパターンを把握している。薬に依存せず、食事や水分での摂取や毎日の運動や散歩等で自然の排便をこころがけている。また下剤や浣腸を使用している人は、医師や看護師と連携をとり、その人に合わせた方法を工夫している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則は毎日入浴としているが、こちらの都合で曜日を決めている。なるべく本人の意向にそように入浴日や入浴時間等をその日の気分や体調等も考慮し決めている。女性の利用者様には、女性のスタッフが対応するなどの配慮も行っている	その人の思いや意向の尊重と自己決定の重視はこのホームの暮らしの様々な場面で出合うが、入浴の自由も、かなりの部分で見受けられる。1時間近くも入っていて職員をハラハラさせたり拒否の人も居るが、それなりの対応をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や表情・気分によって自由に休息できるよう配慮している。ベッドもADLに応じて対応したり、安眠できやすい温度管理等の環境を設定している。眠剤を内服している人はいないが常に薬等の関係性も考慮している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用については、個人別カルテに貼付し、全職員に分かるようにしている。薬の変更時は申し送りノートに記入をしカルテの薬欄にも赤色等で明確にしている。薬はステーションに保管し、その都度名前・日付け等の確認を行い本人に手渡し、最後まで確認を行っている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯・裁縫・料理等生活歴や好みを生かした場面を提供し、その都度感謝の言葉を伝えることで満足感を得られるよう支援している。また季節の行事や家族との外出やボランティアなどの受け入れ等も行っている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候等に左右されるが、散歩や買い物には、極力出かけるよう支援している。また家族との外出や外泊も楽しみにしておられたり、季節の行事(初詣・とんど・祭り)には、地域の人が協力的である	居室に家族と同行する沖縄旅行の行程を掲げていたり、昼食時に西大寺会陽後祭りに行く人の話も聞いた。職員との散歩や買物同行も積極的にしようとしているが、家族も外出支援によく協力している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は持っていないが、買い物等にいったときに、支払いをしてもらったり、祭り等では、個別にお金を渡して払ったりする機会も設けている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話を自らする人は少ないが、1名の方は携帯電話を利用され、家族等に自由に電話をしている。年賀状や暑中見舞い等は、かけない人も職員が代筆するなどして全体でとりくんでいる		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は花を飾ったり、家族が持参してくれる写真や絵を飾って季節感を感じていただき、ソファや椅子でゆったりできるスペースを確保している。居室には、なじみのものを持参していただき安心した空間作りを家族に協力してもらっている。採光、温度・湿度等にも十分注意をしている	共用空間づくりは職員だけが考えてレイアウトしているのではなく、利用者の提案を受けてトイレ表示を「べんじょ」に変えたり、家族の好意や思い入れが多く見受けられて、私から見て理想的な空間づくりになっていると思う。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は基本的には決めているが、その人の状況や他者との関係性等も考慮し工夫をしているソファやいすの配置も落ちついて過ごせるよう配慮をしている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新品ではなく使い慣れたものを持ってきていただくように協力をお願いしている。くつろげるよう本人に合わせてソファ等の持ち込みや居室を花や写真で飾ったり、工夫を凝らしている方もみられる	居室も一人ひとり様々だ。花や写真・お人形等が一杯でサロンのような居室・家族の個性が満載の部屋、持ち物も少な目でさっぱりした居室等、それぞれに本人・家族が楽しんでいるように感じられて良い。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体が、バリアフリーになっており、歩行の不安定な方も安心して過ごしていただけるよう配慮がされている。ADLにあわせて浴室の手すりの位置を変えたり、できることを工夫改善している		